

新たな県立高等学校再編計画（案）に関する地域検討会議記録要旨【釜石・遠野ブロック】

平成 28 年 2 月 1 日（月）

釜石・大槌地域産業育成センター 2階 大会議室

【野田 釜石市長】

- ・ 再編計画案について、各方面の意見を聞きながら取りまとめたということに敬意を表したい。
- ・ 高校再編についてはやむを得ないと思う。計画の 4 つの視点に基づき進めてほしい。生徒数等で学級数を調整するのはしょうがないにしても、地域の期待に応えられる学校教育ができるかということが大切なところ。今回はあまり中味の議論がされなかったが、魅力ある学校づくりに向けた議論の機会を設けて取り組んでいただきたい。
- ・ 道路が整備され、J R 山田線も三陸鉄道に移管する。震災以降、釜石高校には大槌町や山田町からほとんど生徒が来ていない状況にある。交通の利便性が高まれば、生徒の選択の幅が広がり特色を生かした人材育成に努められる。そのためにも、学校の魅力づくりについて地域と連携し、地域の期待にどう応えるかということを目標に掲げて取り組んでほしい。
- ・ 釜石商工高校への専攻科設置についてはこれまでもお願いしてきた。内陸の黒沢尻工業高校にはあるが、沿岸には無い。釜石市として、ものづくり人材の育成に力を注いでいきたい。

【県教委】

- ・ 交通インフラの整備状況も踏まえつつ、再編計画の策定を進めていきたい。
- ・ 学校の魅力づくりについて、産業界の期待もあると思うので十分連携しキャリア教育を進めつつ、復興を支える人材育成に努めたい。
- ・ 専攻科について、現在、大学や高等専門学校、企業等の支援をいただきながら、高いレベルの人材育成を行っている。沿岸地域への設置については、今回の再編計画に盛り込むことは難しかったが、今後は地域の皆様から専攻科についての意見をいただくことも必要と考えているところ。現在、黒沢尻工業高校の専攻科には、沿岸地域からの入学者はいないものの、人材育成の観点から今後、検討する必要があると考えている。

【平野 大槌町長】

- ・ 再編計画案について、未来ある子ども達を育てる観点から、寂しい思いがある。これからの子ども達を育てる上で、楽しい、うれしいといったものが必要であって、人口が減り、子どもの数が減り、だから学級数を減らすというものであってはならない。
- ・ 震災により子ども達が内陸に移動している。各市町村では人口減少に対する施策をとろうとしている時に、数だけで整備するのはどうか。地域にもっと踏み込み、地域から提言をいただくことも必要ではないか。
- ・ 岩手県としてのスタンスが必要ではないか。子どもの数が減っているから小規模にしようではなく、県として地域が希望を持てる、地域に光をあてるような話をした方が良くはないか。人口が減るのは岩手県だけではない。学校が無くなることは地域が消えることにつながる。そうならないような、積極的施策をとっていただきたい。
- ・ 大槌高校について、人口をある程度維持しなければ学級数の維持が難しいという現実はあるが、例え生徒数は減っても、学級数を維持できるような、夢や希望が持てる再編にしていきたい。

（次頁に続く）

【本田 遠野市長】

- ・ 第1回地域検討会議では、ちょっと声を荒げて後味が悪く反省している。人口減少社会の中であって、市町村は懸命に頑張っている。市町村が頑張るから、県も目標となる1つの数字を持つことができる。地方創生法という新たな流れも出てきている。まち・ひと・しごと創生総合戦略に市町村が頑張り、それぞれの地域特性を生かすことで、県全体の底上げも図られ人口減少にも歯止めがかかることになる。
- ・ 県立高校といえども、市町村立高校のような位置づけに時代は変わっていくのだから、発想を変えなければならない。新たな仕組みを作らなければならないということをきちんと踏まえた上で、再編計画でなければならないという意見を、第1回の地域検討会議で述べたことを覚えている。そういった内容が、説明には明確に打ち出されていない。
- ・ 遠野市の2校について、校舎制を導入する案が示されているが、基本的に反対だ。受け入れるわけにはいかない。数あわせだという捉え方しかできない。悲しいことだが、そのように捉えることしかできない。
- ・ 高校教育の現状と課題への対応ということで、魅力ある高校づくりに向けてということが打ち出されている。まさにそのとおりであって、それをしなければ、将来の市町村あるいは岩手県、あるいは国を担う人材が育てられない。だから魅力ある高校づくりが必要と謳われたわけで、もっともなことだ。
- ・ 再編計画に向けた取組については、県だけでなく市町村も考えなければならないことだ。
- ・ 再編計画の4つの視点として、魅力ある高校づくりの推進、望ましい学校規模の確保と適切な配置、広大な県土等の地理的条件を考慮した教育の機会の保障、復興教育の充実が示されている。しかし、出た結論は数あわせだ。新たな取り組みに期待したが、それは出ていない。4つの視点をきちんと踏まえ、将来の地域を支え産業を支える人材を育成するために、子ども達や保護者になるほどと思うことが打ち出されていない。
- ・ 遠野市内の高校の志願者数や将来この程度しか生まれてこない、だから学級減らし、校舎制にするとなっている。
- ・ 一次産業としての農業は大事である。今はそれに付加価値を付けて販路開拓する6次産業化が言われている。それに応える人材となれば、例えば、遠野高校緑峰校舎ではなく、同じ校舎化という概念を持つのであれば、花巻農業高校の遠野校舎とか、盛岡農業高校の遠野校舎という発想はないのかということをおぼろげに口走ってしまった。将来を担うしっかりした人材を作るのだということが出ていない。出ているのは子どもが少ない、志願者が少ない、だから学級減をするということ。
- ・ 教員配置についても、国の姿勢が理由として言われるが、極めて寂しい結論になってしまっているのではないかと。校舎制は受け入れるわけにはいかない。もっと議論するべきだ。もっと検討するべきだ。知恵を出すべきだということ強く訴えたい。
- ・ 地域への説明会が始まってからの一連の報道を全て読ませていただいた。見出しは共通していた。ビジョンがない。数あわせだ。これが高校再編の議論の寂しさを物語っているのではないかと思う。ちょっと言い過ぎたかもしれませんが、想いがそのような形で言わせたと御理解いただきたい。

【赤崎 釜石市農林水産業関係者代表】

- ・ 漁業後継者が少なくなっている中で、水産高校も少なくなっている。
- ・ 釜石商工高校について、2学級減が示されている。中学生が高校に入学するときに、将来を見据え
(次頁に続く)

確固たる意志を持つことはなかなか難しい。もちろん、将来の仕事を考えている生徒もいると思うが、心は揺れている。

- ・ 震災以降、地元の復興に携わりたいという意見も聞こえてきている。人数が少なくなったから学科を減らすとなると、選択肢がかなり狭められてくる。
- ・ とりあえず大学等に進学しようと考えて普通高校に入学したものの、その後に別の進路を考える生徒もいると思う。途中から普通高校から専門高校へ、またその逆もあると思うが、自由に選択できるシステムを考えていただきたい。

【菊池 花巻農業協同組合 理事】

- ・ 高校再編について、現実的に報道がなされてしまった。これから意見を言っても、これを覆すことは不可能だと思う。遠野市には農業高校も普通高校も必要なので、できれば今のまま継続できればと思う。
- ・ 私学の状況はどうなっているのか。遠野市からは電車で通学できるので、私学にも結構入学している。授業料の安い県立高校に行かないで、なぜ私学に行くのかということも、もう少し県教委では考えた方がよい。私学は魅力づくりに頑張っているのだと思う。
- ・ 特色ある学校づくりに向けて、どのように展開するのか。例えば、様々な能力のある教師を採用する等、具体的に取組まないと生徒は魅力を感じない。県立であっても経営の観点が大事で、それを前提としないと、人数だけの議論となり危惧される。私学との関係も考慮して再編を進めてほしい。

【平澤 公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター 専務理事】

- ・ 持続する地域づくりのため、産業の強化に取り組んでいる。地域がなぜ頑張れるかということ、子ども達が地域住民の見えるところで通学しているということがある。地域を活性化する上で、学校の大切さを地域は感じ頑張ろうという気持ちになる。地域住民の思いにどう応えるかということが、再編計画に表現されているかということを考えていただきたい。
- ・ 地域検討会議の当初から、学級数や高校の削減の話となり沿岸地域が置き去りにされるような気持ちになった。地域住民を考えて再編を進めていただきたい。
- ・ 校舎制についても、運用の仕方で大きく変わらと思う。様々な問題はあろうと思うが、生徒のためになるようサポートしていただきたい。
- ・ 高校進学は大きな節目となる。3年間高校で学び生徒が将来の夢や希望に近づくために、地域と一体となって取り組んでいただきたいと思う。志願者が少ないからということで考えるのではなく、県教委と地域が一緒になって考えていただきたい。

【越田 大槌商工会 副会長】

- ・ 資料では、1学級定員40人を基本に高校の再編を検討しているが、30人定員にできないのか。
- ・ 震災により人口は減った。震災が無くても国全体の人口が減っており、人数だけで決めるのはどうか。
- ・ 大槌町は一番震災による被害が大きかった。町内の中学校も2校を除いて被害を受けたこと等から、小中一貫教育を導入することになった。子ども達の教育を前に進めようとする中で、高校再編となると気持ちが落ちる。町内には東京大学の海洋研究センターがあり、震災以降、子ども達の学習を支援していただく中で、子ども達も学習するということをしつづつ理解しているように感じる。
- ・ 大槌高校の学級減が示されたが、せつかくの子ども達の伸びようとする気持ちを折ってしまうのではないかと心配している。

(次頁に続く)

- ・ 地域の特長を生かした学校であるかどうかということを考えるのが一番ではないか。少子化と言われるが、震災以降、生まれる子どもは増えている。将来を見据え、柔軟性を持って検討してほしい。

【佐々木 遠野市商工業関係者代表】

- ・ 難しい問題に対して、真摯に取り組まれていることには敬意を表したい。
- ・ 高校再編計画を建設的につくりたいということで、商工業関係代表として地域の想いや願いを背負ってこれまでの会議に参加してきた。再編計画案には、これまでの意見が反映されていると全く感じられない。全県的な意見を取りまとめることで、内容が薄まることは理解するが、釜石・遠野ブロックでの意見がどのように反映されてこの計画にまとまったのか理解できない。残念な気持ちと、自分の発言が悪いがために、このような結果になり悔しい気持ちもある。
- ・ 地域にとって教育は大事なものである。県民、市民の意見をまとめていくのであれば、どのような意見が出て、それに対しどのような対応をするのかということを示していけば、地元にも説明できるし自分自身も理解できる。
- ・ 高校再編の報道があった後に、何人かの中学生に意見を聴いてみた。将来、高校生となる中学生に夢や目標を与える計画であれば評価できるが、岩手の教育が切り開かれていくということが感じられないようであった。無気力感、残念と捉えている生徒が多い。今後、計画を見直す機会があるのであれば、目標を置いて検討いただきたい。

【芳賀 吉里吉里学園中学部PTA 会長】

- ・ 生徒数が減少することは誰が見ても分かる。学級減は仕方ないと思いつつ、主役は子ども達であって、子ども達にお金をかけないで市や町が生き残るわけがないという想いもある。子ども達が地元に残りたい、保護者が子どもを残したいと思える環境を作ることが大事ではないか。
- ・ 募集定員を少なくすれば、そこから良い人材は育てこない。高校生といってもまだ子ども。再編計画で学級数が少なくなり、専門教科の教員が少なくなり、学びたいことが学べないとなれば、ますます私学に行くような気がする。
- ・ 釜石高校が甲子園に20年ぶりに出場するが、中心選手は大槌町の出身である。震災時は小学校6年生であった。震災以降、地元に残りたいと考える生徒が増えている。中学校では生徒会長が、自分達の力で学校を変えたい、地域と一緒に活動したいと考え、行動を起こしている。我々大人が学びの最高の環境を用意するべきではないか。
- ・ 子どもにお金をかけてほしい。それが将来、この地域出身の教員を育てる環境づくりにもなる。
- ・ 生徒数のことを言われると、市町村は何も言えない。震災からの復興の最中で、これから人口を増やそう、魅力ある町にしていこうと一生懸命考えているところに学級減となると、小中学校の保護者は内陸に引っ越すかということにもなる。現に地元子どもを育てる環境が無いことから、内陸に引っ越す家庭もある。これでは、沿岸地域だけでなく岩手の将来は見えてこない。
- ・ 高校再編は大変な作業だと思う。数による議論も分かる。しかし、失敗しても良いから夢や希望を与える再編計画となることをお願いしたい。

【工藤 遠野市PTA連合会 会長】

- ・ 小規模校の魅力を訴えてきたつもりであったが、昨年12月の高校再編の報道にはがっかりした。何よりも子ども達ががっかりしているのではないか。子ども達のことを考えるのであれば、他に何かあったのではないか。訴えるものが足りなかったのかと、会議に出席している者として責任を感じている。

(次頁に続く)

- ・ 1月20日に再編に伴う意見交換会を遠野市で行った。市内2校の同窓会とPTA、小中学校PTA連合会等の代表が集まり、教育長を中心に話し合った。その結果、子ども達のために2校の存続を訴えていかなければならないという結論に至った。希望を持ちながら、2校存続を訴えていきたいと思う。

【菊池 釜石市教育委員会 教育次長】

- ・ 再編計画案を見て、単なるデータの分析集であって光るものがない。5年で200人減る、10年で400人減る、15年経ったらいなくなると単純な数字の羅列で、負のスパイラルに陥ることを心配している。こうならないための県教委としての特色ある取組がほしい。
- ・ 市町村、関係機関と連携した魅力づくりに取り組むような計画案にしてほしい。難しい問題ではあるが、関係市町村や関係機関と取り組んでいきたいといった思いが、再編計画案に盛り込まれても良かったのではないかと。

【伊藤 大槌町教育委員会 教育長】

- ・ 大槌高校は平成31年に創立100周年を迎える。これまで何がまずかったのか、何が課題かということを見据えなければならない。生徒数と同時に、学びの質なり学びの歴史を見据えた提案が必要であったのではないかと。
- ・ 平成32年度までの前期計画の具体が示されているが、これから10年先、20年先あるいは50年先にこの再編計画がどう結びつき、学びがどう変わるのかということも出さなければならない。
- ・ 大槌町では4月から義務教育学校が設立される。子ども達はどんどん減っているが、町の人口ビジョンでは、今後生まれてくる子どもの数について80人を維持していくということが示されている。その8割が大槌高校に入学したとしても約60人となり、再編計画案の基準によれば2年先には校舎化か、あるいは統合ということになる。将来が見えている学校で、頑張ろうということにはならない。
- ・ 再編計画の4つの視点が示されているが、地域と一緒に学校を育てていくという観点が弱いのではないかと。県立高校ではあるが、市町村立として位置づけられている学びの場なので、地域と一緒に作っていく視点を持ち、どういう環境を整えればいいのかという議論をしっかりやっていく必要があるのではないかと。これを今までやってこなければならなかったが割愛してきた。だから、数あわせではないかという意見が出てきているのだと思う。県教委としては取り組んできたということではあるが、不十分だったのではないかと。今回の再編が学校間格差あるいは地域格差につながらないように、10年先、20年先を見据えて検討する必要があると思う。
- ・ 資料をみても理解できないところがあるので、一般県民にも分かるように、高校再編によってこういう学びができるということを示していただければありがたい。
- ・ この地域に生まれたために学びができない、この地域で育ったために十分な学びができないということはあってはならないと思う。協働により、良い学びの場を作ることが大事であり、3月に再編計画を示して終わりではなく、見直しをしながらより良い学びの場を一緒に作っていきたい。

【藤澤 遠野市教育委員会 教育長】

- ・ 高校再編の報道で、遠野市の2校が統合ということに驚きを覚えた。
- ・ 遠野市では地域密着の活動が多くある。年間の様々な発表会もあり、市民が高校の歩みを見たり聞いたりする機会が多々ある。
- ・ 校舎制の導入が示されたが、現在在学している高校生が自信を持って歩んでいることへの一定

(次頁に続く)

の評価が下されたのではないかとこのことを考えた。また、今後、高校に進学する中学生が、校舎制が導入されることへの不安を持たないか危惧される。

- ・ 高校生には一生懸命地域の発信をしてもらっている。子ども達に伝える大人の視点は何かないかということで、市長部局と10人体制の高校支援検討チームを組み議論を進めてきた。1月20日には両校の同窓会、PTA、小中学校PTA連合会、市校長会等の代表者による意見交換会を行い、夢を保ち魅力ある学校づくりに邁進するという決意で、2校の存続を確認した。

【佐々木 釜石・大槌地区中学校長会 副会長】

- ・ 釜石地区では、中学校長と県立学校長との協議会を設けている。中学校とすれば、力をつけて高校に進みより充実した社会人に育つような教育を目指しているが、教育力が未熟なために高校にお力添えいただき、一人ひとりの子どもを懇切丁寧に指導いただいている。今後とも一緒になって、地域の子供達を育てていきたいと思っている。
- ・ 一番問題なのは、教育の質だと思う。子ども達に志を持たせ、夢や希望に向かって進めるような教育活動を一生懸命やることにつきる。今後も一層中高が連携して、地域における教育に努めていきたい。

【県教委】

- ・ 今回の計画案を策定するにあたっては、現在各市町村が「まち・ひと・しごと創生法」に基づく地方版総合戦略に取り組んでいることを踏まえつつ検討し、計画案で示しているところ。地域における関係者の存続に向けた取組も考慮し、前期5年間では直ちに統合による廃校ということではなく、基本的には学級減で対応することで提案したものである。
- ・ 学校の規模が小規模化する中において、様々な生徒の進路希望に対応するように各校で取り組んでいる。今後、キャリア教育を通しての地元産業への理解と職業観の育成、部活動指導等では、地域の御協力をいただくこともあると考えている。ただし、連携については県教委から押しつけるのではなく、地域と十分協議しながら主体的な取組を支援していくような考えで検討したい。具体的には、各校にある教育振興会等を活用させていただきながら、地域と学校それぞれにプラスになるようなことを議論しながら、学ぶ環境を良くしていくことを考えていきたい。
- ・ 今回の再編計画案では、教育の質を確保することと併せて、通学等で困難な場合には学ぶ機会を保障していくということも重視した。教育の質と機会のバランスを考えながら進めていかなければならないことから、今回の再編計画案を示したものである。
- ・ 1学級定員について、高校標準法の規定に基づき、1学級40人としているもの。現状として、県北中山間地域では、1学級平均30人以下となっており、実質的に少人数学級となっている。県教委として、1学級定員35人を小学校は4年生まで、中学校は1年生まで導入しているが、全学年まで至っていない。まずは、義務教育での少人数学級導入を優先させていきたいと考えている。国には引き続き教職員定数の改善を要望するとともに、状況に変化があれば少人数学級も検討させていただきたい。

【本田 遠野市長】

- ・ 説明の繰り返しではなく、我々に発言する機会と時間がほしい。そうでなければ無駄。あとは協力してください、協力してくださいと言っても、ただただアリバイづくりに終わってしまう。県教委は我々の意見を聴く、ちゃんと年度内に考え方をまとめるんだ、そのためにはパブリックコメントもしながらきちんと意見を聴くと言ったんだから、そういう時間をください。

(次頁に続く)

(新たな県立高等学校再編計画案への意見を本田遠野市長が説明)

【本田 遠野市長】

- ・ 県教委からの説明を聞き、出席者の皆さんのそれぞれ想いも聞いた。大槌町の芳賀さんの話は、親の気持ちをストレートに出したのではないかと聞いていた。保護者や地域の想いといったものを、高校再編にどのようにかみ合わせていくのか、大人としての知恵が問われている。大事なことだと思う。皆さんの発言を聞き、それぞれの立場での見方や捉え方があり、それをどのようにかみ合わせて良い結論に持っていくのかということ。
- ・ 遠野市の場合は校舎制が大きく報道されてしまい、子ども達の希望が断たれてしまうことにもなりかねない。慎重に真剣に議論しなければならない。
- ・ 県教委には、12月14日に遠野市までお越しいただき説明もいただいた。しかし、その時には遠野高校と遠野緑峰高校の校舎制について、示された資料にはありませんでした。そして、12月25日の公表で校舎制が出てきた。もっと我々を信頼し、なぜストレートに言ってくれなかったのかという残念さがある。これは、受け手である市と県との立場の違いによるすれ違いがあったのかもしれない。すごくそのような想いがある。岩手県全体としての見方もあるが、市町村は生き残りをかけている。
- ・ あるところでこういうことを話した。「大槌という町が消えたんです。」そしたらある方から、「市長さん、消えたというそんな失礼なことを言っているのか。今、懸命に頑張っているんだぞ」ということばで諫められた。高校再編は大きな課題である。ただ、うまくかみ合っていない感じがする。
- ・ 「魅力のある」、「広域的な」という言葉が再編計画案の中にあるが、中味をきちんと取り込んでいないのではないかとというもどかしさがある。
- ・ ただ、それを一方的に言うとは我々が問われる。
- ・ 新たな県立高等学校再編計画へのパブリックコメントの一つとして、遠野市は2校の存続を求めるときの資料を用意した。最初はタイトルを統合への「反対」としたが、高校存続で切り込んでみないかということ考えた。遠野市の考え方、私(市長)だけの考え方ではない。先程、遠野市教育長からも話しがあったとおり、検討チームを立ちあげて真剣な議論を行った。我々も必死になって元気のある地域をつくりたい。遠野で生まれ遠野で育ち、遠野のためにと考える子ども達を育てることによって、まち全体が元気になるんだといった想いの中で、議論していただいた。
- ・ 魅力のある学校づくりを目指し、市外・県外からの入学生を受け入れるようなアプローチをしてみないかということ考えた。生まれた子どもの数は、県教委が示しているとおりであって、どうのこうの言っただけで突きつけられる数字には、立ち向かうことができない。それであれば、市外・県外に視点を変えながら、教育するのであれば岩手だという様々な仕組みをづくり上げていくことで、結果的には人口減少に歯止めをかけるという取組を考えている。東京は人口1,300万人いる。都市部には、教育環境や恵まれた自然、あるいは豊かな文化に飢えてる人がいっぱいいる。そういう人達に対して、教育は岩手にまかせろといった想いがあるとしても良いのではないか。
- ・ アプローチだけでなく、具体的な仕組みを作らなければ駄目、言葉が踊っては駄目ということで、議論した結果、資料にあるような具体的なものを立ちあげて、2校を全面的にサポートしようということである。
- ・ 特に県外から呼び込むことは一つの大きな魅力だと思う。地域のそれぞれの特長や伝統を生かし、若い人が存分に学び体験する中で、将来の夢や希望を実現するための受け皿としての高校があつて

(次頁に続く)

も良いのではないかと考えている。連携センターをつくり、産学官金労言の総合力でもって地域づくりを行うというのが我々のプログラムであって、それぞれの立場の方に参画していただき、一緒に魅力ある高校を生み出していくんだということでの巢立ち応援プロジェクトである。

- ・ 遠野高校、遠野緑峰高校をそれぞれ魅力化の中でサポートしてみようということ。県教委とよく相談し力をいただきながら、地域の特性を生かしたもの、市町村と県ががっちりタッグを組んで魅力ある高校づくりに向けた新たな教育環境支援策を、どのように打ち出していくかということでのコンセプトをまとめてみた。
- ・ 平成32年に示す入学者の推計はその通りで避けることできない。これを越えるために何ができるかということでの新たな取り組みについて、我々の立場で考え県といろいろ話し合おうということでの提案である。子ども達のため、子育てをしている保護者の夢をかなえるために、あるいは産業や伝統を守り支えるために一つの方向性でなければならないと思う。私だけが時間をとってしまうと申し訳ない。県も市町村も一緒になって良い方向にもっていくこと、子ども達のためということを基本に据えた議論をして参りたいと思っている。

【平野 大槌町長】

- ・ 再編計画案に対する素晴らしい意見だと思う。一方的に意見を出すだけでなく、それを市町村がどう考えるか投げかけてもいいのではないかな。
- ・ 数の原理からすれば生徒数は減少するが、10年スパンではなくもっと将来を見据えなければならないと思う。その中で、遠野市がいち早く計画案に対する意見をまとめていただいた。県もしっかりと受け止めてほしい。沿岸市町村においても、こういう取組は地域を活性化させる。人口が減るという厳しい状況が突きつけられる中で、学級数を減らせば良いというのではなくもっと知恵を出しましょう。私達も県にお願いだけしよう等とこれっぽっちも思っていない。私達がやるべきことはやるし、県としても考えるということで、意見を聴いたからこれで終わることのないように、岩手県の教育を変えていくという強い意志を持ってほしい。
- ・ 広い県土を持ち、それぞれの地域の様々な要件があると思うので、岩手らしい教育の在り方をしっかり示していただきたい。町としても真剣に考えていきたい。

【赤崎 釜石市農林水産業関係者代表】

- ・ 地元から意見を出すことは必要なこと。意見のやりとりで新しいことが生まれてくると思う。よろしく願いしたい。

【県教委】

- ・ 遠野市から提案があった内容について、こちらからも質問してよろしいかな。

【本田 遠野市長】

- ・ 産学官金労言が、学校の魅力づくりにおいて、それぞれどのような役割を見いだすことができるのか。
- ・ 未来づくりカレッジについては、土淵中学校が中学校再編で廃校となり、その廃校となった学校を何か利用できないかということで検討した。当時、富士ゼロックスとの接点があった。大手企業が社員教育にもがいていた。「ビルの谷間で研修しても将来の会社を担うような社員教育ができない。メンタルな部分で、様々なトラブルの事例がありこれではダメだ。」ということで、社員研修の在り方を検討しているということから、未来づくりカレッジという行政と企業とのコラボレーションが実現した。昨年度は4,000人の高校生・大学生・企業の社員が研修に訪れ結果を得た。やればできる、工夫すれば学校を蘇らせることができるということを感じた。 (次頁に続く)

- ・ 遠野市では過去に自動車学校が廃校になった。県の公安委員会から、本当に無くしていいのか（70才になれば免許更新しなければならぬが、花巻市や釜石市に行くことになってもいいか）ということで、様々な知恵を出し合った。そして、合宿型自動車学校として遠野ドライビングスクールが新たに蘇った。これをヒントに高校再編について、お互いに知恵を出してもいいのではないかとということで取り組んだ。
- ・ 再編計画案に協力をよろしく願いますとか、御理解いただきますということはこれまでのことで分かった。次はどのような協議をしていくのかということ。県と市町村が一緒になって、保護者や子ども達が喜び期待する仕組みをつくり上げていく議論が必要ではないのか。

【県教委】

- ・ 貴重な御提案をいただき、今後、検討しながら協力をしていかなければならないと考える。
- ・ 遠野市内の中学生について、平成 27 年度においては、卒業生 251 人中、5 学級程度の生徒が市内の 2 校に入学をしている。旧宮守村と遠野市小友町は岩手中部の学区にもなっていることから、遠野市外の高校にも入学していること、平成 32 年度までに 1 学級規模にあたる 39 人の卒業生数の減少があること等を勘案し、このまま学級数を維持することがはたして良いのかということがある。平成 27 年度の一般入試の倍率が 0.93 倍ということもあり、中学生の学ぶ意欲に影響が出ているのではないかという意見もいただいている。
- ・ 県外から 1 学級規模の生徒を呼び込むとなるとかなりの課題がある。それらを踏まえ、どのような対応ができるか議論させて頂きたい。
- ・ 校舎制を提案したのは、ただ生徒が少なくなるからということだけが理由ではない。それぞれの高校が持つ進学と就職の進路指導を生かすことができること、学校規模が大きくなることで部活動、生徒会活動の活性化に繋がること等も考慮しながら、それぞれの高校の成果も十分踏まえた上で提案させていただいたものである。

【県教委】

- ・ 魅力ある学校づくりについては、日々悩みながら取り組んでいるところ。再編計画案については、平成 27 年 4 月に改訂した今後の高等学校教育の基本的方向や地域からの意見等を反映しまとめたものである。
- ・ 教育の質については、計画案に基づいて内容を考えるということもある。生徒が希望や夢を持てる教育をどのように展開していくかということは、再編を検討する中で考えていきたい。
- ・ 葛巻町の山村留学は、町から相談を受けた上でどういった形で県が取り組めるかということを検討し受検を認めることとしたもの。学区外からの受検について、これまでは、募集定員の 10%とする制限があったが、定員を割っている高校については、それを超えて合格を認めても良いということで改めたもの。他からは幼小中高一貫教育に取り組みたいといった提案もあり、文科省に申請する予定で取り組んでいる。
- ・ 高校教育の内容については、再編後に取り組むことと今から取り組めること等様々なものがある。学校の魅力づくりにむけて提案いただいた内容についても検討して参りたい。
- ・ 県外からの受検については慎重に進めなければならない。県教委としては、県内の高校生の教育が最優先と考えているものの、人口減少時代を迎え考え方を変えていかなければならないこともある。道路網が整備されると地域の活性化につながることもあるが、逆に生徒の流出を招く場合もある。県外からの受検をオープンにするということはリスクがあり、慎重に考えていかなければならないことから、県教委としても取組について整理しているところである。 (次頁に続く)

【本田 遠野市長】

- ・学区の在り方について検討したのは分かる。言いたいのは、提案した校舎制を導入するということが寂しい結論だったということ。こういう選択肢や方法がどうかという、話し合いや知恵を出し合うといったアプローチがあったのではないか。
- ・岩手大学で教員になりたい学生と向き合ったことがある。その時に遠野市の中学校再編について学生と話をした。教育学部の教員を目指す志の高い学生に、市町村の置かれている立場を説明し感想を書いてもらった。中学校の再編について、仕方がない、やむを得ないという意見が多数だった。それが中学校再編に大きく踏みこむ勇気を与えてくれた。
- ・私の立場でこんなことを言うとおこがましい、思い上がっているとされるかもしれないので言葉を慎むが、学級数とか教員定数の問題ではない。訴えればいいじゃないですか。変えればいいじゃないですか。新たな仕組みを我々と一緒に訴えて、そういう制度を変えればいいじゃないですか。でなかったら、独自の制度を作ればいいじゃないですか。そういうことがあってもいいのではないか。そういうことがあって議論がかみ合ってくるのではないか。

【菊池 釜石市教育委員会 教育次長】

- ・定時制高校について、中学校時代に不登校だった子ども達の入学が多く、その子ども達のほとんどが皆勤となっていると聞く。定時制通信制課程の在り方を考えた場合、このブロックに1校で足りているのか。不登校で学校に行けなかった生徒にとって、高校に入学できるというきっかけが必要である。県内の不登校の割合がどうなっているか、分かれば教えて頂きたい。

【県教委】

- ・定時制について、沿岸には釜石高校を含め、大船渡高校、宮古高校、久慈高校と各ブロックに設置しているもの。
- ・釜石高校は震災後の公共交通機関の関係もあり、午後の時間から授業を行っている。生徒の学び直しの場ともなっており、全県的には、多部制・単位制の検討も含め対応していかなければならないと考えている。

【越田 大槌商工会 副会長】

- ・再編計画案を若い人達に見せた。子どもを育てている親とすれば、働いている近くに学校が無くなるとどうなるのか。それを考えると、家族で他の地域に転出するという負の連鎖が起きる。1学級40人定員について、どうにかならないものかと思っている。

【県教委】

- ・皆様の意見を聞き、改めて本県の高校教育への期待と地域の高校への愛着を感じたところ。
- ・1学級定員については、まず義務教育の35人学級を考えているところであり、御理解を賜りたい。
- ・遠野市から建設的な方針に基づく学校への支援について説明頂いた。最終的に生徒が減る事実がある中で、市としてどう対応すべきか、ということでの提案であると思う。しかし、現実を見据えなければならぬこともあり、それを踏まえた上で考えていかなければならない。頂戴したばかりの意見でもあり、また、入試にかかわる制度のすりあわせも必要であることから即答はできないが、持ち帰り検討したい。
- ・間違いなく生徒が減り、人的、物的な様々な制約がある中での高校再編計画であることにも御理解いただきたい。この制約がなければ、皆様の御希望に添うことも可能なのかもしれないが、このハードルが決して低くはないことを踏まえての再編計画であり、今後も議論を進めさせていただきたい。